

2018年度自己点検・評価報告書の公表にあたって

全学自己点検・評価委員会委員長

学 長 馬場 善久

『2018年度自己点検・評価報告書』を公表するにあたり、創価大学における自己点検・評価活動の概要について一言ご紹介申し上げます。

2017年度は、「3つのポリシー」を起点とした教育の質保証を実質化するため、大学全体及び学部・研究科におけるアセスメント・ポリシー／アセスメント・プランを策定し、ホームページ上に公表しました。

2018年度は、創価大学の特徴を踏まえた内部質保証システムの構築及び体制強化を目指し、以下の取組を進めました。

1. アセスメント・ポリシーに基づいた学修成果の測定及び可視化を推進

全学部・研究科及び共通科目において、昨年度策定したアセスメント・ポリシー／アセスメント・プランに基づき学修成果の測定及び可視化を推進しました。また、その結果について点検・評価を行い、教育改善につなげるサイクルを構築することを目指しました。各評価分科会においては、初めての試みであり、試行錯誤の作業となりましたが、先進的な取組事例も確認することができました。

2. 学生参加型の内部質保証体制の推進について

2017年度の全学自己点検・評価委員会において、現在の内部質保証体制に学生参加の仕組みを取り入れることが決定されました。

学修成果の測定及び可視化の結果について、全学協議会または各評価分科会の中で、可能なところから学生代表を加えて評価分科会を行い、学生の意見を取り入れる仕組みを作りました。また、「創価大学自己点検・評価実施規程」に「学生の代表を構成員とすることができる」との一文を加えて学生参加を規定しました。

3. 「創価大学内部質保証推進委員会」設置及び内部質保証ポリシーの改正

全学の内部質保証推進の責任を担う組織として、学長を委員長とした「内部質保証推進委員会」（以下、推進委員会）の設置を検討し、新年度からあらたな内部質保証体制をスタートさせます。

それにともない、2013年度に策定、公表した「創価大学内部質保証ポリシー」についても内容の見直しを行いました。推進委員会の権限と役割、推進委員会と他組織との役割分担、さらに教育のPDCAのための指針を明記し、2019年度にはホームページ上で公開いたします。

教育・研究活動の一層の向上を目指して、創価大学における内部質保証システムの更なる強化を進めてまいります。

公表内容をご高覧頂き、本学の活動に対して皆様の忌憚のないご意見を伺うことができれば幸いです。

2019年3月